

7
月



美園小だより

令和6年6月28日
さいたま市立美園小学校
第167号 児童数 1060名
Tel 048(812)6611
Fax 048(878)6660

新しい一万円札の顔 渋沢栄一

校長 河野 秀樹



校長室前の渋沢栄一コーナー

「渋沢栄一は、自分のためだけに生きるのではなく、みんなのために生きようという目標を達成したので、私もこれから先、自分の目標を立てて、学んだことを生かしていければいいなと思いました」これは、道德の授業で渋沢栄一の生き方を学んだ5年生の振り返りの記述です。

7月3日には、約20年ぶりに新たな紙幣3種類が発行されます。新千円札は破傷風の治療法を開発した微生物学者の北里柴三郎。新五千円札は女性の地位向上に尽力した教育家の津田梅子。新一万円札は「日本の資本主義の父」とされる実業家の渋沢栄一が、それぞれの顔になります。

私は、先日渋沢栄一の生まれた深谷市を訪ねました。渋沢栄一記念館では、大学のゼミの先輩であるK氏に案内をしていただきました。数多くある展示の中で、特に興味を引いたのが「武州自慢鑑 勸進藍玉力競」の番付表でした。NHK大河ドラマ「青天を衝け」でも、栄一が藍農家を招いた宴会で、この年に育てた藍葉の出来で農家の番付を作りました。それに応じた座席を決めたことで、百姓らが「来年こそは自分が大関なる」と言って大いに盛り上がるシーンがありました。このことは自伝『雨夜譚』の中でも記されています。若いころから、自分が得をすることを考えるのではなく、身分に関係なく誰もが平等に切磋琢磨し合う中で、よいものを作るということを大事にした栄一の思いを感じずにはられません。その大事な版本を見つけたのが、実はK氏であったということを知り驚きました。先輩は、今から約50年前にゼミの卒論作成で栄一とゆかりのある家を訪れました。たまたまその家の主人が納屋から出してきた板の埃を払うと「藍」の字が見え、この番付表を発見したということでした。このようなエピソードを伺いながら、専門的な視点で館内を案内していただくと、ますます栄一に対する関心が高まり、一層理解を深めることができました。

栄一は生涯500余りの企業の創設や育成に関わり、600以上の社会・公共事業に携わりました。更に興味を持って調べてみると、亡くなる前まで50年以上にもわたり院長として関わり続けてきたのが養育院事業だったことが分かりました。親も親戚もいない子どもたちや身寄りのないお年寄りを、健康面や教育面でサポートする施設です。なぜ、生涯続けた事業が、企業や学校の設立ではなくて養育院だったのか？ 栄一の母は、大変慈悲深い人で気の毒な人がいると黙ってみていられなかったそうです。そのような母親の慈愛の心を、栄一がしっかりと引き継いだからではないでしょうか。栄一が亡くなった後、霊前には養育院の子どもたちからの見舞状やお悔やみ状が山のようにあったそうです。